

中村好文展 小屋においでよ！

2013年4月17日（水）～6月22日（土）

会場＝TOTO ギャラリー・間（東京都港区南青山 1-24-3 TOTO 乃木坂ビル 3F）

休館日＝日曜日・月曜日・祝日

開館時間＝11:00～18:00（金曜日は 19:00 まで） 入場無料

講演会：2013年4月25日（木）18:30～

事前申込制 会場＝建築会館ホール（東京都港区芝 5-26-20）



Luna Hut

©雨宮秀也

展覧会概要

建築家・中村好文氏は 30 年あまり首尾一貫して、クライアントの暮らしに寄り添った、普段着のように居心地のよい住宅をつくってきました。建物に新奇性や作品性を追い求めることをせず、主役は「そこに住む人たちであり、そこで営まれる暮らし」と考える中村氏の設計思想は、初めて家を建てる若い夫婦から独り暮らしの老婦人、サラリーマンから芸術家まで、幅広い世代やジャンルの人々に共感され、絶大な信頼を得ています。

本展覧会では、「住まい」に自然体で向き合ってきた中村氏が「住宅の原型」として注目し、子供の頃から魅せられてきた「小屋」を通して、「住宅とはなにか？」を問い直します。

会場は大きく 3 つのパートで構成されます。3 階の第 1 会場では、「鴨長明の方丈」から「ル・コルビュジエの休暇小屋」まで、中村氏があこがれ影響を受けてきた「古今東西の 7 つの小屋」を紹介します。4 階の第 2 会場では、中村氏がこれまでに設計してきた数ある住宅のなかでも、特に「小屋的な」住宅を選びすぐって紹介します。そして中庭には、原寸大の「ひとり暮らし用」の小屋を展示します。この小屋は、ここ数年来、中村氏が自身の小屋で実験してきたエネルギー自給自足型の小屋を究極のサイズにまで切り詰めたもので、この小屋で人の住まいと暮らしの原型に思いを馳せていただく趣向です。

小屋を訪ね、小屋を体験し、小屋から学ぶ……中村好文氏ならではの「遊び心」満載の展覧会をゆっくりお楽しみください。

展覧会情報

展覧会名（日）	中村好文展 小屋においでよ！
展覧会名（英）	Yoshifumi Nakamura: Come on-a my Hut!
会期	2013 年 4 月 17 日（水）～6 月 22 日（土）
開館時間	11:00～18:00（金曜日は 19:00 まで）
休館日	日曜日・月曜日・祝日
入場料	無料
会場	TOTO ギャラリー・間 〒107-0062 東京都港区南青山 1-24-3 TOTO 乃木坂ビル 3F TEL=03-3402-1010 URL= www.toto.co.jp/gallerma/
交通案内	東京メトロ千代田線 乃木坂駅 3 番出口徒歩 1 分 都営地下鉄大江戸線 六本木駅 7 番出口徒歩 6 分 東京メトロ日比谷線 六本木駅 4a 番出口徒歩 7 分 東京メトロ銀座線・半蔵門線・都営地下鉄大江戸線 青山一丁目駅 4 番出口徒歩 7 分
主催	TOTO ギャラリー・間
企画	TOTO ギャラリー・間運営委員会 特別顧問：安藤忠雄 委員：岸和郎／内藤廣／原研哉／エルウィン・ビライ
後援	社団法人東京建築士会／一般社団法人東京都建築士事務所協会 社団法人日本建築家協会関東甲信越支部／一般社団法人日本建築学会関東支部
協力	株式会社クリエイト A／株式会社コラム／山洋木材株式会社／株式会社ツキデ工務店 有限会社羽根建築工房／有限会社藤巻工業／協同組合レングス

建築家紹介

中村好文氏による展覧会コンセプト文

小屋においでよ！

32歳で独立してから30数年間、おもに住宅設計と家具デザインの仕事をしてきました。そのあいだに、レストランやカフェを設計したり、小さな美術館や個人記念館などを手がけたりもしましたが、仕事のほとんどは住宅設計でした。

「ビッグプロジェクトには見向きもせず、住宅ひとすじに……」と言いたいところですが、実際には「ビッグプロジェクトの方が、ぼくに見向きもしなかった」というのが本当のところ。ただ、このことは私の「望むところ」でした。もともと、建築家としての私の最大の関心事は「人のくらし」と「人のすまい」でしたから、身の丈を越えた大きな仕事を抱えて右往左往することなく、心おきなく住宅の仕事に取り組むことができたのは幸いでした。

ところで、私の「人のくらし」と「人のすまい」への関心は、「住宅ってなんだろう？」を考えることでもありました。ある時期からは住宅の原型が「小屋」にあるような気がはじめて、南仏のル・コルビュジエの休暇小屋や、ロンドン郊外のバーナード・ショーの小屋や、岩手県花巻の高村光太郎の小屋など、古今東西の小屋を世界各地に訪ね歩く旅を繰り返してきました。そして、8年ほど前からは、エネルギー自給自足を目指す私自身の小屋（「Lemm Hut」2005年、長野県）で、自然の恵みと自分自身に向かい合う質素な小屋暮らしを愉しむようになりました。

「小屋においでよ！」と題した今回の展覧会は、そんな小屋好きの建築家が敬愛をこめて「小屋」に捧げるオマージュです。

会場では、長いあいだ、私の心の中に住み続けてきた古今東西の小屋の名作について語るとともに、これまで私の手がけてきた「小屋」と「小屋的な住宅」を紹介します。そして、中庭にはこの展覧会を象徴するひとり暮らしのための「究極の小屋」を展示します。

この展覧会が、来場者のひとりひとりにとって、小屋を通じて「住宅とはなにか？」を考えるまたとないきっかけになってくれますように……。



©雨宮秀也

中村好文（なかむら・よしふみ）

1948年千葉県生まれ。72年武蔵野美術大学建築学科卒業。72～74年宍道建築設計事務所勤務の後、都立品川職業訓練所木工科で家具製作を学ぶ。76～80年吉村順三設計事務所勤務。81年レミングハウス設立。99年～日本大学生産工学部建築工学科教授。

1987年「三谷さんの家」で第1回 吉岡賞受賞、93年「一連の住宅作品」で第18回 吉田五十八賞「特別賞」受賞。

主な作品に、「三谷さんの家」（長野県、1985年）、「上総の家Ⅰ、Ⅱ」（千葉県、1991年、1992年）、「museum as it is」（千葉県、1994年）、「扇ガ谷の住宅」（神奈川県、1998年）、「Reil Hut」（栃木県、2001年）、「伊丹十三記念館」（愛媛県、2007年）、「明月谷の家」（神奈川県、2007年）など。

著書に、『住宅巡礼』、『住宅読本』、『意中の建築 上・下巻』（以上新潮社）、『普段着の住宅術』（王国社）、『住宅巡礼・ふたたび』（筑摩書房）、『中村好文 普通の住宅、普通の別荘』（TOTO出版）など。共著に、『吉村順三 住宅作法』（吉村順三と共著、世界文化社）、『普請の顛末』（柏木博と共著、岩波書店）などがある。

展覧会の見どころ

[1] 小屋の魅力に惹きこまれる「古今東西の7つの小屋」

3階の第1会場では、「小屋好き」を自称する中村好文氏が古今東西のあまたある小屋から厳選した7つの小屋——鴨長明の方丈／ヘンリー・デイヴィット・ソローの小屋／猪谷六合雄いがやくに おの小屋／立原道造のヒヤシンスハウス／高村光太郎の小屋／堀江健一のマーメイド号／ル・コルビュジエの休暇小屋——を紹介しします。会場には2～3人が入れる小屋型のブースが立ち並び、ひとつのブースにひとつの小屋が紹介されます。シンプルな針金のワイヤー模型、家具まで作りこんだ模型、本物の図面など、それぞれの小屋の魅力に応じて工夫をこらした展示がなされます。なかでも「鴨長明の方丈」は、ブース全体が観光地にあるような「顔ハメ看板」となっていて、中世日本の隠遁の世界に来館者が同化できるユーモアたっぷりの展示となっています。

[2] 中庭に「究極の小屋」が出現！

中庭には、中村氏が本展示のために設計した、ひとり住まいのための「究極の小屋」が出現します。間口3m×奥行き4mの小さな小屋の内部にはトイレやキッチンもあり、本当にここで独居自炊ができるようになっています。また屋根の上に設置された檣には発電のための風車とソーラーパネル、給水のための高架水槽が備わり、エネルギー自給自足をめざした小屋でもあります。あらためて言うまでもなく、エネルギー自給自足型の住宅は、地球環境に対して負荷をかけないための提案ですが、同時に、太陽や風や雨などの自然の恵みを楽しむ活用するための提案でもあります。ぜひ実際に「究極の小屋」に身をおいて、つつましい小屋の向こうにひろがる豊かな世界に触れてみてください。

また4階の第2会場では、中庭の小屋の図面やスケッチ、さらに制作風景——大阪の工務店での仮組み、中庭での地鎮祭、中庭での建て込み——の動画が上映されるほか、壁面には中村好文氏がこれまでにつくってきた「小屋的な」住宅が約18軒あまり紹介されます。

関連プログラム

中村好文講演会 小屋から家へ

日時	2013年4月25日(木) 17:30開場、18:30開演、20:30終演(予定)
会場	建築会館ホール(東京都港区芝5-26-20)
定員	350名
参加費	無料
参加方法	事前申込制：申込期間内にウェブサイトよりお申し込みください。 URL= www.toto.co.jp/gallerma/ 抽選の上、2013年4月15日(月)までに結果をご連絡いたします。
申込期間	2013年3月8日(金)～4月7日(日)

関連書籍

『中村好文 小屋から家へ』

著者	中村好文
写真	雨宮秀也
発行日	2013年4月中旬
体裁	菊判、ハードカバー、240頁(予定)
発行	TOTO出版(TEL=03-3402-7138 URL= www.toto.co.jp/publishing/)



[1] Luna Hut (2012年/兵庫県神戸市) ©雨宮秀也



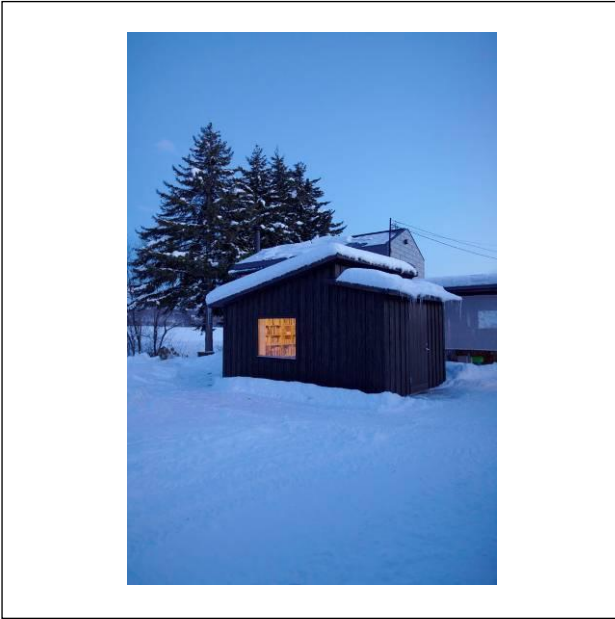
[2] Luna Hut (2012年/兵庫県神戸市) ©雨宮秀也



[3] Peak Hut (2012年/長野県北佐久郡) ©雨宮秀也



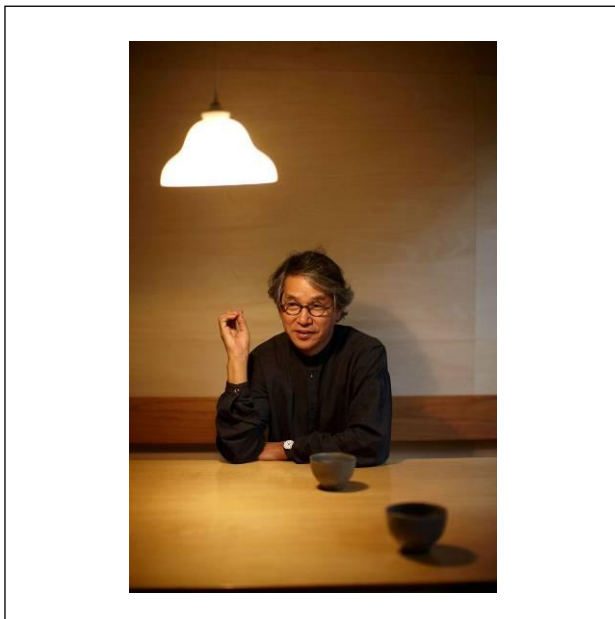
[4] Koma Hut (2009年/長野県北佐久郡) ©雨宮秀也



[5] Jin Hut (2012年／北海道虻田郡真狩村) ©雨宮秀也



[6] Jin Hut (2012年／北海道虻田郡真狩村) ©雨宮秀也



[7] 中村好文 ポートレート (2012年) ©雨宮秀也